

平成18年7月23日洪水に係る松原ダム・下釜ダムの調節効果について

【速報推計】

今回の洪水は、松原ダム・下釜ダムで約7,688千m³を貯留したことで、最大調節時、日田市の小湊地点で0.48mの水位低減効果を発揮し危険水位までの上昇を防げたものと推測しています。

梅雨前線の影響により、松原ダム、下釜ダム流域では7月22日朝から雨が降り始め、24日9時までの累計雨量は松原ダム周辺流域で171mm、下釜ダム周辺流域で220mmに達しました。

このため、松原ダムでは流入量が700m³/sに達した23日20時28分より洪水調節を開始し、23日21時08分にはピーク流入量778m³/sに対して、66m³/sをダムに貯留し712m³/sを放流しました。また、下釜ダムでは、流入量が350m³/sに達した23日17時18分より洪水調節を開始し、23日21時39分にはピーク流入量816m³/sに対して、470m³/sをダムに貯留し346m³/sを放流しました。

問い合わせ

国土交通省 九州地方整備局

筑後川ダム統合管理事務所

管理課長 松本 信之

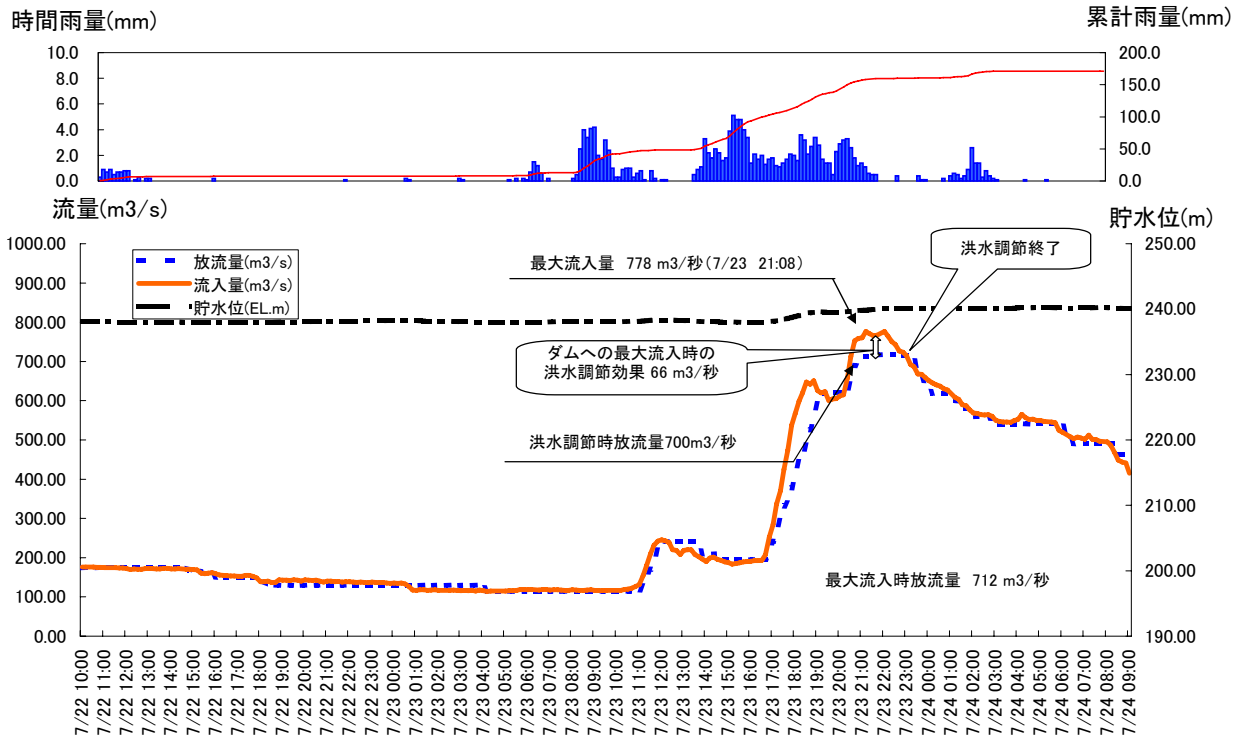
TEL 0942-39-6651

内線 331

1. 松原ダム、下笠ダムの貯留状況

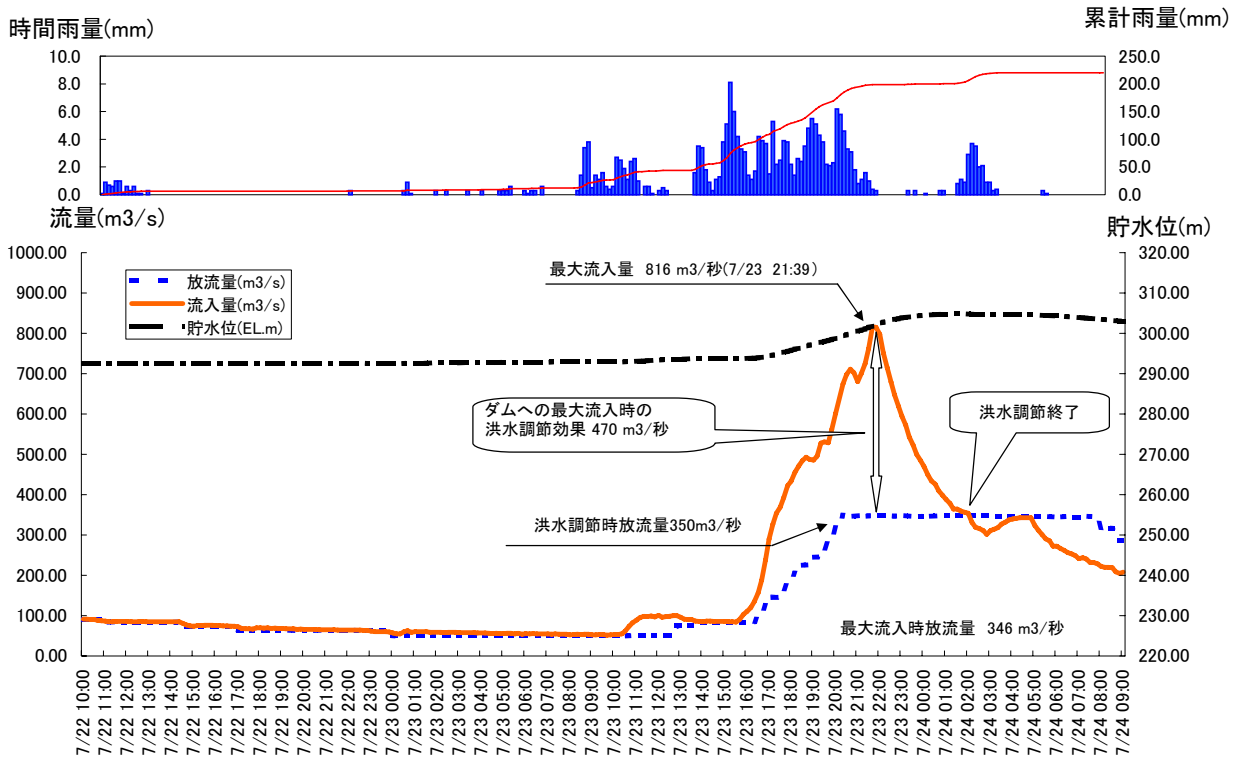
①松原ダム

松原ダムにて約383千立方メートルを貯め込みました。



②下笠ダム

下笠ダムにて約7,305千立方メートルを貯め込みました。

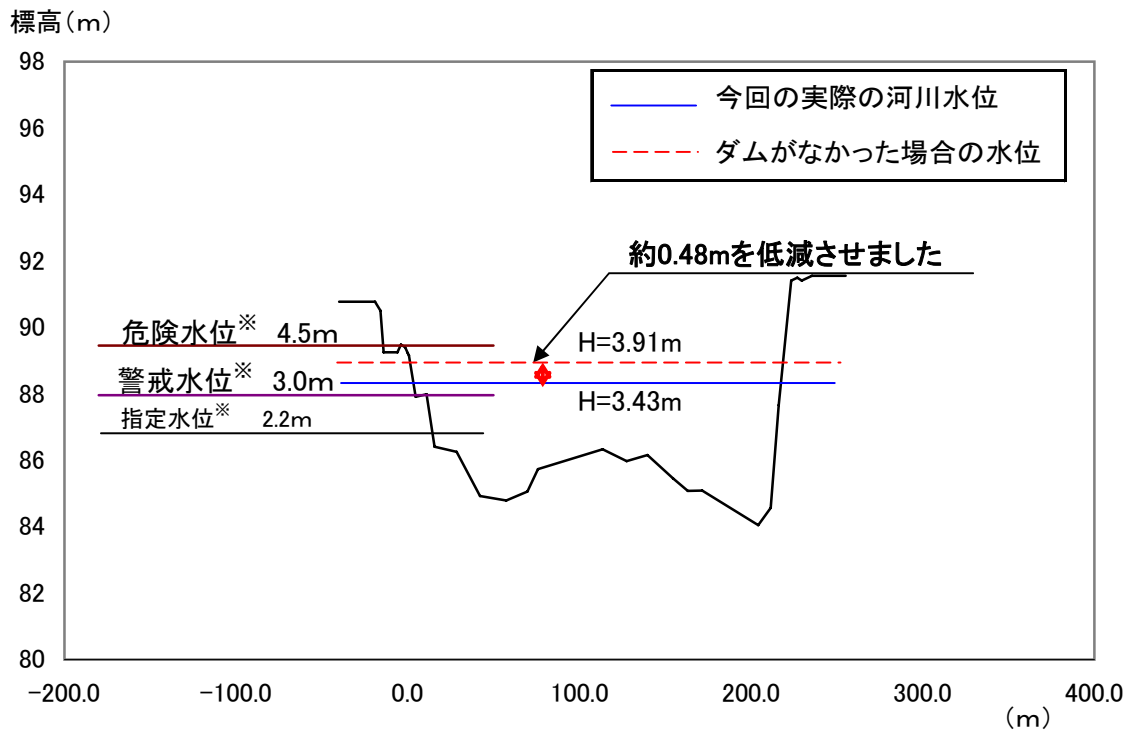


2. ダムの最大調節量時における調節効果

1) 日田市小湊地点

①ダム最大調節量時における調節効果

松原ダム・下笠ダムによって約0.48mの水位低減効果がありました。



2) 日田市小湊地点平面図



※降雨などによって河川の水かさが増し、水防関係者が水防活動の準備を始める水位のことを**指定水位**、災害の恐れがある水位のことを**警戒水位**といい、さらに水かさが増し氾濫の恐れがある水位のことを**危険水位**といいます。